

会 議 録

1. 日時	令和3年10月27日(水) 19:00～20:50				
2. 会場	入広瀬公民館 3階 多目的ホール				
3. 出席者 (敬称略)	No.	組織名	役職	氏名	出欠
	1	入広瀬小学校PTA	会長	梅井 雅行	○
	2	すもんこども園保護者会	役員	浅井 菜美子	欠
	3	芋鞘連合自治会	区長会長	浅井 作松	○
	4	入広瀬コミュニティ協議会	会長	梶沢 一彦	○
	5	学校評議員	評議員	櫻井 伸一	○
	6	学校評議員	評議員	浅井 宏一	○
	7	学校評議員	評議員	村山 あき子	○
	8	学校評議員	評議員	穴沢 勝弘	○
	9	教育委員会	教育長	樋口 健一	○
		(オブザーバ)			
		入広瀬小学校	校長	川瀬 由美子	○
		すもんこども園	園長	大桃 好子	○
		総合政策部	副部長	米山 真里	○
		(事務局)			
	教育委員会	事務局長	吉澤 国明	○	
	教育委員会	学校教育課長	森山 丈順	○	
	教育委員会	学事係長	須佐 光行	○	
4. 資料	<p>会議次第</p> <p>入広瀬小学校検討委員会委員名簿(令和3年10月27日現在)</p> <p>魚沼市入広瀬小学校検討委員会設置要綱</p> <p>魚沼市立入広瀬小学校の今後の在り方の方針の諮問について</p> <p>入広瀬小学校の今後についての意見(集約)</p>				
5. 会議概要	<p>開 会</p> <p>1 教育長あいさつ</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>3 教育委員会諮問</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 前回の会議以降の動きについて</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 入広瀬小学校の今後の在り方について</p> <p>6 その他</p> <p>閉 会</p>				
6. 結果	<p>会議の結果以下のとおり決定した。</p> <p>・入広瀬小学校を須原小学校へ統合する意見が多かったが、保護者全員の意見を集めてから検討すべきとの意見があり、保護者に対し、アンケート調査を実施する</p>				

	<p>こととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果を踏まえて検討委員から意見を提出してもらうこととした。 ・次回会議を令和3年11月17日(水)19:00より入広瀬公民館多目的ホールで開催することとした
--	---

■議事詳細

議 事 内 容	
	<p>【午後7時00分開会】</p> <p>(事務局) 定刻となりましたので、ただいまから入広瀬小学校検討委員会を開会いたします。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。なお、本日は浅井菜美子委員より欠席の連絡をいただいております。それでは、最初に教育長があいさつを申し上げます。</p> <p>1 教育長あいさつ</p> <p>(教育長) こんばんは。まず始めに保護者のみなさんに説明し、ご意見をお聞きする会を設け、続いてコミ協や自治会のみなさんからもご意見をうかがい、前回から正式な検討委員会としてスタートしたわけです。そして10月の定例教育委員会では、検討委員会あてに正式に諮問することを決定させていただき、委員のみなさまには本日委嘱状をお渡ししております。前回の会議では、統合あるいは存続についてメリット、デメリットの意見をたくさんいただきました。これまでの話し合いや取り組みを受けまして今日は、大まかな方向性のところまで進めていただければと思っております。それぞれの立場で忌憚のない意見をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>(事務局) お手元の次第の2の委嘱状の交付、3の教育委員会諮問について事務局より説明申し上げます。</p> <p>(課長) 教育委員会で設置要綱を決定しまして、委嘱状を交付させていただきました。ご確認くださいと思います。</p> <p style="text-align: center;">(委嘱状は資料と一緒に各委員に交付済み)</p> <p>3 教育委員会諮問</p> <p>(課長) 教育委員会より諮問が出され、諮問の文書を資料として配布しておりますので、ご確認ください。魚教第590号で梅井委員長あてに教育委員会より諮問が出されております。魚沼市立入広瀬小学校の今後の在り方について、魚沼市入広瀬小学校検討委員会設置要綱第2条の規定により、市立入広瀬小学校の今後の在り方の方針に関することについてを貴検討委員会に諮問いたしますということで正式に諮問させていただきます。</p> <p>(事務局) 4の報告事項からは委員長により会議の進行をお願いします。</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 前回の会議以降の動きについて</p> <p>(委員長) 正式な検討委員会ということですが、まずは子供たちにとってどうなのかということを第一に考えていかなければならないことは揺るぎないことかと思えます。一方で地域にとっての学校という視点も欠くことができません。場合によってはこの2つの視点が相反する部分もあるかと思えますが、その点を踏まえつつ本日の議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは4の報告事項について事務局の説明をお願いします。</p>

(課長) 前回の会議以降の動きについて報告させていただきます。前回の会議の最後にメリット、デメリットに関する意見や感想について、委員のみなさまにアンケートをお願いしました。それらをまとめた資料を事前に配布させていただいております。資料では、回答された方のお名前を伏せてまとめておりますが、丸数字が回答者の番号を示しており、同じ丸数字は同じ委員からの回答になります。資料については以上です。前回以降の動向についての部分ですが10月22日に市議会の総務文教委員会があり、検討委員会設置の報告と9月27日及び本日の会議の開催について情報提供しております。また、市のホームページにも検討委員会の要綱を新たに掲載したところです。

(委員長) ただ今の報告を受けてみなさんからご意見、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(委員長) 事務局の報告以外で委員のみなさんから案件がありましたらご発言をお願いします。

(報告事項なし)

(委員長) 特にないようですので次に進めます。

5 議事

(1) 入広瀬小学校の今後の在り方について

(委員長) 入広瀬小学校の今後の在り方について、まずは前回の会議でお配りしたメリット、デメリットの意見について集約がなされていますので、その取扱いについて事務局から説明を受けたいと思います。

(課長より資料「入広瀬小学校の今後についての意見(集約)」について説明)

(課長) アンケート用紙の回答欄のスペースが限られておりましたので、補足事項があるかもしれませんし、事前配布したこの資料を読み、もう少し詳しく説明を聞きたいという部分がございますらこの場で意見交換をしていただければと思います。

(委員長) 何か気になる点などございますか。

(特になし)

(委員長) まとめられた意見については一通り目を通していただき、ご理解いただいたものと思います。様々な声が上がっている中で、現時点でのみなさんのお考え、感想などをお聞かせいただければと思います。一人ずつ順番にお聞きします。

(委員) 資料の5⑥にあるとおり私は、統合した場合の記念式典は高学年主体で開催すべきだと思います。その場合、何年後に統合するのが妥当かお示しいただきたい。1、2年生が主体となるのはおかしいので、やはり5、6年生がリードして自分たちの手作り式典を実施したことを思い出や記念してもらいたいと思います。

(校長) いつが妥当かは、この検討委員会で決めていただくことになろうかと思います。児童数については、来年度は6年生が5名で3年生が3名、1年生が1名で2、4、5年生がいません。令和5年度は5、6年生がいない状況となります。高学年主体で式典の実施を検討するのであれば、令和4年度に実施しなければ、次は2年後にならないと高学年がいない状況です。

(委員) 令和4年度に式典の実施は可能でしょうか。

(教育長) 児童数から行くと令和4年度が9人で、まだ6年生が5人いる状況なので、令和5年度の当初に統合というのが最短です。令和5年になると6人となり、高学年がいなくなります。統合のデメリットとして新しい環境に慣れない児童が心配だというご意見もありましたので、最短で進める場合は来年度に統合先と交流を進めるとか、新しい環境への準備を進めていくことが必要です。また、学

校を閉じるための手続きや式典関係も含めた様々な準備が必要となりますが、令和4年度末の閉校、5年度当初からの統合が最短だと考えています。

(委員) 2⑥に子どもたちは順応性があり、すぐに友達ができるし、すもんこども園で下地ができているため、特別な心配がないという意見や、3④集団活動ができない、全ての面で経費が高くなり、集団学習が困難という意見について、私もそうだなと感じました。5④に令和4年度、統合先の学校と積極的な交流を望みますとの意見にあるとおり、たくさんはできないかもしれませんが、なるべく交流の機会を設けて、そのために予算も必要でしょうし、スムーズに統合できるように交流を進めてほしいと思います。

(委員) 資料を読んでみて、委員のみなさんは、早い段階に統合した方が子どもたちにとってメリットが大きいと考えているように感じました。それには保護者と地域の方々が納得して、スムーズに統合できるよう事務局で調整をお願いしたいと思います。最短だと令和5年度の統合ということですが、私もそうなるのかなと思いました。学校も準備が大変ですが、子どもたちが新しい学校に早く馴染めるように配慮していただきたい。統合するとなると須原小学校ということでしょうか。

(教育長) 学区を飛び越えて統合することは考えにくいです。

(委員) この件について須原小学校へは伝えてあるのでしょうか。

(教育長) 検討委員会の設置については校長へ伝えてありますが、地域への説明はまだです。

(委員) 相手から断られる可能性はないでしょうか。

(局長) 魚沼北中学校の時のように校名変更などを伴う新設統合の場合は、お互いの合意形成が必要かと思いますが、学区外就学により入広瀬から須原小学校に通っている児童がいる現状から、それに近い形であると須原小学校側でとらえてもらえば、それほどハードルは高くないものと考えています。まだ、須原小学校側には何のアクションも起こしていない状況ですが、ただ、現状では新設統合は想定していません。

(委員) 魚沼北中学校の時のように新設統合であれば、お互いが対等の立場になりますが、吸収となると入広瀬の子どもたちが弱い立場に立たされるのではないかと不安があります。その辺は大丈夫でしょうか。

(局長) 現実にはすもんこども園へ入広瀬から子どもたちが一緒に通っているわけですので、私たちはそういう心配はしていません。

(副委員長) 学区外就学で須原小学校へ通っている子の最高学年は何年生でしょうか。

(教育長) 5年生が一番上で、全部で6人が須原小学校へ通っています。先ほどの件に戻りますが、須原小学校へ入広瀬の子どもたちが入ったときに切ない思いをするのではというご心配ですが、令和4年度にしっかりと交流を進めていく、その1年間の準備期間が大事です。もちろん学校で差別やいじめが起きないように十分な指導を行います。来年度からは同じ学校の仲間になるということを含めて交流を進めたり、学習を一緒に進めたりすることが、スムーズに統合するために必要だと思います。

(校長) 実は統合とは関係なく、現在も須原小学校との交流は行っています。先日も2年生が須原小学校へ行き、交流活動を行ってきました。すもんこども園で一緒だったことと、剣道クラブなど学校外で頻りに顔を合わせる機会あり、抵抗なく交流できていたと担任から報告を受けています。

(委員) 14年前に入広瀬小学校の6年生が守門中学校へ行きたいというグループと、入広瀬中学校へ進みたいグループと2つに分かれたことがありました。これは親同士が話し合っただけのことではあ

りませんでした。私は1学年下の親の立場でそれを見ていましたが、私たちの世代は、どういう結論になるにせよ、子どもの意見を吸い取って親同士が腹を割って話し合いをしなければだめだとPTAで話し合いを進め、全員が入広瀬中学校への進学を決めました。個々の事情はいろいろありましたが、話し合うことで理解は深まったと思います。それから8年前には中学校の3校統合案の話がありました。その時もどういふ結論になるにせよ、親同士、地域同士でけんかしてはだめだと、親同士で情報交換をして仲良くやっていきたいと思います。それからPTAの運営をさせてもらいました。そういった経過を踏まえるとメリット、デメリットよりも、まずは親同士でしっかりと話し合っていたほしい。子どもたちの意見を受け止めてもらいたい。地域のみなさんからもしっかりと話し合っていたほしいという思いです。両方の学校とも、子どもたちはのびのびしてとても良い雰囲気です。統合になったとしても子どもたちはどんどん仲良くなって輪ができ、賑わいができていくと思います。

(委員長) PTAの動きについてですが、今年4月に話し合いを行い、市に対して検討の場の設置を働きかけましょうということになりまして、その後、7月末に教育委員会主催で保護者向けの説明会が開催されたところです。来週、学級懇談会で保護者が集まり、検討委員会の設置と議論の進捗について報告することになっています。そこで保護者からの意見を聞くことにしたいと思います。

(委員) 個人的には地域のためを思えば存続が望ましいと考えています。しかし、保護者のアンケートで8割近い方が統合を望んでいることを見ますと地域の事情ばかり言っていられません。保護者の意見を良く聞いて不安のない統合を進めていただきたい。先日、地域学習で全校児童12名が訪ねてきましたが、その様子を見ると子どもたちはみな元気が良く、集団活動ができないなんてそんなことはないとの思いもあります。校長先生もおられますので、集団活動は何人いなければできないのか教えていただきたい。

(校長) 2人いれば集団といえなくもないですが、運動会については、来年度は9人しかいませんので紅白に分かれての開催が困難です。小グループであれば何人からでも集団は作れるわけですが、学校を挙げての大きな行事はやはり難しいと思います。

(委員) 運動会も地域の人たちが参加すればよいわけで、集団活動ができないというのは腑に落ちない。やり方を工夫すれば集団活動ができない理由にはならない。それはそれとして、保護者がどのように考えているかよく意見を聞き出し、子どもたちが安心して学校へ行けるように教育委員会と協力して環境づくりをしてもらいたい。保護者でよく話し合っていて進めてもらいたいと思います。

(副委員長) この資料に載っている意見については、私は全部納得しています。こうしてみると、こども園の存在が大きいと感じています。幼稚園のころから仲間との付き合いを深める意味を評価したいと思います。統合するしないについてのメリット、デメリットについてはここにまとめられたとおりでと思いますので、その点については考えを改めるつもりはありません。

(委員長) 集約された意見を見ると、統合やむなしなのかなという思いです。子どもたちにとって、保護者にとってということを中心に考えるべきものと思っています。10年前の時点であれば市内、県内はもとより首都圏から子どもたちを集め、特色ある私立学校のようなものをつくる取り組みもできたかもしれませんが、今から準備をしては間に合いません。地域の思いや学校がなくなると家族そのものがないという厳しい現実のお話もありました。こうした部分について「ではどうするか」といったことも答申に付け加えたいと思っています。私からは以上ですが、オブザーバーの方からの意見もうかがってよろしいでしょうか。

(校長) 1年生から6年生まで全学年がそろっていない学校というのは私にとっては初めての経験です。複式学級のある学校で勤務経験はありますが、それでも全学年はそろっていました。やはり全学年がそろっていないと学年の特性や、その学年で身につけたいこと、そして、その姿を見てお互いに育っていくことが難しいと感じています。小さい子は小学生の姿を見て、小学生は中学生の姿を見て、いろいろな世代の子がグラウンドに集まって行事に取り組んでいたというスクラム教育のお話を聞いて、みんなで支えあい、励ましあい、刺激しあう姿を想像して、とてもわくわくした気持ちになりました。その頃と今を比較してはいけませんが、スクラム教育があった時の良さを吸収することは難しい状況なのかなと思います。もちろん少人数の良さ、楽しさ、悩みを持っている子への声掛けもできていて良い部分もありますが、集団の中でどうやって人と関わっていけばよいかというところは、弱さを感じるところです。子どもたちにもっと地域のことを知ってもらおうと、地域支援員と連携しながら地域学習、ふるさと学習など、今ある人数の中で精いっぱいできることをやっつけていこうと考えています。子どもたちにどういう力をつけてあげたいかを考えて、その力がつくようにやっていきたいと思っています。

(委員) いじめはないですね。

(校長) ちょっかいを出したりということはありませんが、お互いがいじわるでやっていることではないとわかっているので今のところはないとらえています。

(園長) スクラム教育が行われていた時期に入広瀬幼稚園で勤務していました。運動会の時期になると園児たちが小学生の練習の様子を窓から眺め、自分たちも小学校に行ったら同じことをするのだと感じ取っている様子を間近で体験してきました。今、学区外就学をしている児童の世代が4歳児のころに受け持ったのですが、保護者の方はどちらに進学するか本当に悩んでいました。何を悩んでいたのかというと、学力についてはマンツーマンに近い形なので心配していないが、これから生きていく中で大きな社会に入っていくときに、それを乗り越えていく力が身につくのだろうか、そこを一番心配されていたようで、悩んだ末に須原小学校への入学を決めたとのことでした。スクラム教育の良さを見てきたので地域のみなさんの思いもよくわかります。保護者の方が悩まずに済むように、また、地域にとっても良い結論になるようになると良いなと思います。

(副部長) 私は入広瀬出身ですので入広瀬地域の良さはわかりますし、小出地域との違いも分かっています。地域が今後どうなるのか、人口が減り、学校がなくなる事への不安、さみしさもあると思います。まずは子どもや保護者の意見を聞き、次に地域と話し合うことが必要だと思います。学校がなくなると地域の停滞が心配されますが、この地域にはコミュニティ協議会もありますし、コミュニティスクールの取り組みも始まります。地域を盛り立てるために入広瀬地域でできることを地域のみなさんで取り組んでいただきたいと思います。

(委員長) 委員のみなさん、オブザーバーの方々からの意見をうかがいました。みなさんの意見を集約すると、子どもたちのため、保護者のためを第一に考えて統合する方向を選んだ方が良いというお考えなのかなと思いました。諮問に対して検討委員会として何らかの答申を示す必要がありますが、統合するという方向で意見をまとめることでよろしいでしょうか。先ほどから話が出ている、地域についての部分もしっかりと答申に盛り込み、統合やむなしとしても統合後の地域づくりの部分もしっかりと橋渡しをしていきたいと思いますが、そういう形でよろしいでしょうか。

(委員) バブル崩壊から30年が経過し、日本経済が拡大から縮小に向かう中で、地域をどうしていったらよいか、地域の方も行政も全くわからない状況だと思います。長い目で見ていくと市の中心部に

人口が集中していく傾向にあるのですが、その動きが速すぎるといけない人が出てきて地域が困ってしまう。そういう面からも守門、入広瀬地域で頑張れるうちは、そこでやっていくのが一つの作戦なのかなと思います。学校と地域のつながりという面から統合を前向きに考え、守門、入広瀬地域が一つにまとまって小学校を運営できる体制を現実的な範囲で考える必要があると思います。それは入広瀬地域を持続可能な形にもっていくことにもつながると思います。判断は早い方が生き残る確率が高いと思います。

(委員長) 入広瀬地域という視点以外にも入広瀬、守門全体の北部地域という視点で、その在り方にも焦点をあてていくようにしたいと思います。統合した場合の心配の一つとしてあげておりますが、コミュニティスクールのスタートが来年度にせまっており、守門は守門でコミュニティスクールが立ち上がり、入広瀬は統合が決まれば1年間だけの活動になります。運営が既に始まっている守門のコミュニティスクールに入広瀬がどう加わっていけばよいのかといったところも不安な部分としてあります。子どもたちは交流を以前から行っているとのことですが、コミュニティスクールの在り方について、守門単独から北部地域全体での切り替えがどうなるのか、そういったところも含めて考えていかなければなりません。方向性としては統合でまとめさせていただきますが、そのほか不安な点等ありますでしょうか。

(副委員長) 14年前に子どもの半数が学区外就学した件について、私にとっては当時、寝耳に水の話でした。親も含めて未だに当時のことを引きずっている方もいらっしゃるようです。魚沼北中学校への統合については自分も検討委員会に参加して真剣に議論に参加しました。今回は教育委員会からの正式な諮問があつてのことで、今後、地域や保護者へ説明することとなると思いますが、どのタイミングで説明するのか考えておいていただきたい。

(委員長) 保護者のみなさまには11月2日には、正式な答申をあげる前に途中経過を報告し、確認する場を設けたいと思います。寝耳に水といった状況は作らないようにします。地域への説明は正式に答申が出されるまでは行われないのででしょうか。

(課長) 検討委員会の検討期間中に説明する場合は、検討委員会の委員長名で実施する形になりますし、答申をいただいた後であれば、教育委員会として説明にあがる形になります。どちらが良いのかは悩ましいところですが、答申後の方が検討委員のみなさんの負担がなくて良いのではないかと考えているところです。

(副委員長) この委員会の会議は公開されているとのことですが、検討委員会の設置や検討の流れについて、何らかの形で地域にお知らせしておく必要があると思います。

(局長) 前回分も含めて会議録をホームページで公開します。また、次回以降の会議の傍聴も認めることとしますが、ホームページは見えていないという人もいますので、地域のみなさん向けに紙媒体による広報も可能です。ただ、教育委員会としては諮問して答申を受ける前の段階ですので、教育委員会主催での説明会はタイミングとしては早いと考えています。

(委員) 入広瀬だけでなく守門地域にも検討経過を周知しておいた方が良いでしょう。

(委員長) 今後の流れの話にも関連しますが、今回の意見をいただいたうえで、11月の時点ではまだ答申は決定ではなくて案を検討する場ですね。

(課長) どこまで書き込めるかわかりませんが、答申の素案を作成して事前配布させていただき、次回の会議で素案が成案に固まっていけばよいと考えていました。

(委員) 統合案を固める前に、保護者に意見を聞いてメリット、デメリットを全部洗い出すべきです。そのうえでデメリットもあるが子どもたちのために統合すべきだ、又はメリットもあるがデメリットの方が大きいので存続すべきだと。11月や12月に結論を出すということではなくて、じっくりと時間をかけるべきです。保護者の心配な点を洗い出し、デメリットがあるとすれば教育委員会に対応をお願いしたうえで統合する・しないを決めるべきでしょう。

(委員長) メリット、デメリットについては、意見をまとめたうえで答申案を作成し、次回11月の検討委員会に諮りたいと思います。そこで異論が出たり、もっと検討を行うべきだということであれば、そのように進めていければと考えています。そのほかございますか。

(委員) 先ほど樫沢副委員長の話の中で寝耳に水という発言がありましたが、あの時は何も説明がないままいきなり新聞報道がなされ、蜂の巣をつついたような大騒ぎになりました。いきなり報道関係に情報を流すようなことはないですよ。

(局長) 今回のこの件については、検討に入っている旨を市議会の総務文教委員会に報告済みであり、会議自体を公開しております。地元で説明する前にマスコミに出るということはないと考えています。

(委員) 14年前のことを引きずっている方がいるということを知っています。そのようなことがないようにしてほしいです。

(局長) 検討委員会の会議は公開している状況ですので、結論だけが先にマスコミに流れるということはありません。

(副委員長) 答申したものが教育委員会で審議され、それが議会にあがって統合する・しないが決まるということでしょうか。

(局長) 答申の取り扱いですが、まずは教育委員会に報告することになります。入広瀬の児童が須原小学校へ通学するという学区の変更は教育委員会で決することになります。学区の変更について教育委員会で決定すると議会側へ情報提供すると、最終的には条例の改正が必要になるわけですが、そのあたりのタイミングをどうするかまでは調整前の段階です。正式な条例改正まではまだ時間がありますが、市議会の総務文教委員会へは何か動きがある都度報告しています。

(委員) 前回の検討委員会で予算との関りというような話がありましたが、どの部分に関わってくるのでしょうか。先生の配置の予算という部分でしょうか。

(課長) 来年度統合に向けた取り組みをするということであれば、閉校式、交流授業などの予算が必要になると想定しています。先生方の配置については県予算ということになりますが、それについては県へ要望していくこととなります。

(教育長) 統合ということになれば、入広瀬小学校が閉校となりますので、1人加配教員がつかます。方向性が固まり次第、県へ要望していくこととなります。

(委員長) そのほか進め方の部分で何かありますでしょうか。

(課長) 今日はいろいろなご意見をいただきましたが、選択肢の一つとして令和5年の4月に統合となりますと、予算編成の関係から今の時期に方向性を明確にしておく必要があります。前回メリット、デメリットの部分を意見交換していただきました。このほかにも細かい部分や気づいていない部分もあるかもしれませんが、統合する・しないの議論はある程度進めていただきたいという気持ちです。本日は、存続なのか統合なのか、みなさんの意見が一致するところまで持っていければという希

望を持っていたところなのですが、そこまで進めずに次回の会議まで持ち越していかどうかなのですが、いかがでしょうか。

(委員長) 現在の検討委員会としては、統合に前向きな考えの委員が多いようです。

(課長) そうでしたら、また、宿題のような形のアンケートを作ってまいりました。

(アンケート用紙を資料として追加配布)

(課長) 入広瀬小学校存続又は統合への希望ということで今後、どのような具体的な事項の検討が必要なのかご意見をいただきたいと思います。期待することや不安なことについてお書きください。また、今後検討する必要がある課題につきましては、本日言われた中のデメリットの部分もそうですし、保護者や地域の説明はどうするのかといったことについて書いていただければと思います。①は実現するための期待する点やアイデアについて、②は不安な点やそれを解消するためのアイデアをお書きいただければと思います。答申案をまとめていくうえで、統合に向けて期待する点は伸ばし、不安な点については解消し、減らしていくようなことを附帯事項として付け加えることも可能だと考えています。答申書に具体的なアイデアまで書き込むことは難しいかもしれませんが、寄せられたアイデアについては学校現場や地域づくりの担当者へ伝えていくようにします。本日の流れからすると12月にも検討委員会の開催が必要かもしれませんので、12月の予定もお知らせいただければと思います。

(副委員長) P T Aにはかなり早い段階で意見を聞いたということですが、その後、こういう検討委員会が動いているということを含めて、もう一度親御さんたちから深く考えてもらう機会を設けたらどうでしょうか。親の意見も全員ということではなかったとのことですので、一人でも多くの親からの意見を聞いていただきたいと思います。

(委員) 委員の意見ではなく、保護者が不安に思っていること、期待することなどの意見を出してもらって、それをこの検討委員会で検討すればよい。委員からこういうアンケートを出してもらう前に保護者からの意見を先に出してもらいたい。

(委員長) 先ほどもお話ししましたが来週、学級懇談会で保護者が集まる機会がありますので、そこで私の方から、これまでの議論の経過を説明します。検討委員会として保護者の意見も欲しいということであれば、学級懇談会の場で保護者から意見をいただいて、方向性の検討につなげていきたいと思いますがいかがでしょうか。

(「はい」の声あり)

(委員長) それでは、これと同じような内容で検討委員会として保護者のみなさんにも意見を求めることとしたいと思います。

(委員) 保護者全員の意見を聞いてください。一人でも不安の声があるとすればどのように解決すべきなのか検討委員会で検討して、分からない部分は教育委員会に質問しながら保護者全員が不安がないという状態になってから、地域として存続するか統合するかの結論を出していきたいと思っています。

(委員長) 11月の学級懇談会に出席される方はもちろん、欠席されるご家庭があれば、そのところも含めて意見を聞きたいと思います。そのうえで委員としての立場の意見も必要です。

※この後、保護者アンケートの配布、締め切り、とりまとめのスケジュールについて川瀬校長からの提案により10月29日配布、11月1日回収、11月2日とりまとめとすることにした。

(教育長) 委員がおっしゃったように、全ての保護者のみなさんから不安の声を拾い上げていくような形をとればと思いますが、保護者には一度意見を聞いているところですし、これまでの検討の経過を踏まえ、検討委員会では統合の方向で考えていますということを出したうえで、不安や心配、要望があるのかどうか、議論を少し進めた形でアンケートを取らせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員長) 私もそれでよいと思いますがみなさんいかがでしょうか。

(委員) 心配な事だけでなく、楽しみにしていることも書いてもらって前向きに進める雰囲気づくりも必要ですので、その辺も配慮いただきたい。

(委員) 確かに不安のことだけとなると、それだけを一生懸命考えて書くことになる。

(副委員長) 学校名を残さないということまで踏み込んで書いていいものかどうか。

(委員長) 統合する場合に閉校にするか、休校にするかということですか。

(副委員長) そうです。先ほど課長のほうから予算のことで、閉校なら式典等の予算を出すということでしたが、もし閉校でなく休校だということに話が向かったとき、私は中途半端なことはやめた方がよいと思っています。

(局長) 保護者、地域向け説明会の際に休校ということも制度上はありうるとの話をさせてもらいましたが、やはりそれはごく例外的なこととみなさんもお考えと思います。そこはあまり触れなければ自然に閉校だと受け取っていただけるのではないかと考えております。休校はあり得ますがごく例外的とお考え下さい。

(委員長) 保護者の意見の集約につきましては、検討委員会の設置と統合の方向性などこれまでの検討経過を含めて書面で今週末に依頼することとします。11月2日の学級懇談会でその結果をお示しして、その場で意見交換させていただき、次の検討委員会で保護者の意見はこうでしたというところを報告させていただくという流れが一つ。また、委員としての意見も出していただき、11月17日の検討委員会で方向性を探っていく形で進めたいと思いますがいかがでしょうか。

(課長) 委員としての意見は11月4日までではなく、11月12日までに提出をお願いします。保護者の意見も取りまとめて、みなさんのところにお送りしますので、それを参考に意見をお書きいただき12日までに提出をいただければ17日の検討委員会までにとりまとめできます。

(委員長) はい。では保護者の意見を踏まえてご意見を頂戴したいと思います。以上で本日の議題を終了したいと思います。議事進行を事務局にお返しします。

6 その他

(事務局) 次第の6のその他についてみなさんから何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

(事務局) なければ次回の日程について課長より説明がございます。

(課長) 次回11月17日、同じ時間で同じ会場で開催させていただきたいと思います。12月のカレンダーもお配りしましたので、これ以降の会議の日程調整もさせていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局) それでは次回11月17日となります。よろしくをお願いします。

閉会

(事務局) 最後に局長より閉会のあいさつを申し上げます。

(局長) 長時間にわたり熱心な議論ありがとうございました。事務局としましては年度という単位があるため、スケジュール的にやや先走ってしまったかなという感がありますが、このような大事なことを決めるわけですので、慎重な審議と十分な議論が必要だと改めて思ったところでもあります。次の会議までに宿題のような形でお願いして恐縮ではありますが、みなさまの意見を積み上げて次の会議にのぞみたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。本日は大変ありがとうございました。

【午後 8 時 50 分 閉会】